

肢体不自由特別支援学校における自立活動専任の役割に関する研究（1）

自立活動の専門性の継承に向けた学校組織改編の取り組み

○内山 誉利子 浅野 裕加子 浦井 尚女 三木 容子 三宅 有 岩佐 昌英
 (大阪府立堺支援学校) (同左) (同左) (同左) (同左) (奈良学園大学)

KEY WORDS: 自立活動専任 専門性 校内巡回システム

（はじめに）

A支援学校は、設立当初より『治療体育部』が設置され、小・中・高等部と並列して『自立活動部』という専任部が存続していた。専任部教員は、「自立活動の時間における指導」に関して「個別の指導計画」の作成・実践を主導的な立場で行っていた。しかしその体制では、担任が自立活動を含む児童生徒の「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を主体的に考え難く、また自立活動の専門性が継承されにくいという懸念があった。

そこで平成24年、学校組織を改編し、専任部を廃止するとともに学校全体の教員支援を行う自立活動専任スタッフ（以下、専任スタッフ）6名と校務分掌としての自立活動部を新たに配置した。

専任スタッフは、「校内巡回システム」（以下「巡回システム」）による直接的な教員支援をはじめとして、自立活動の専門性を継承するための業務に携わってきた。

本研究では、学校組織改編から5年間の専任スタッフの取り組みをまとめることにより、これまでの成果と今後の取り組みに向けての課題を探る。

（目的）

学校組織改編から5年を経過した現体制を振り返り、専任スタッフの役割について検証する。

（方法）

専任スタッフが掲げている業務内容を項目ごとにまとめ、専任スタッフの役割を目標と照らし合わせて検証する。

（結果）

＜専任スタッフの役割＞

自立活動の指導（日常生活の指導・各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等、自立活動の時間における指導）に関する教員支援を通して、自立活動の指導力の向上をめざし、自立活動の指導の充実に寄与する。

＜目標・取り組み＞

1 発達基盤の力の育成

「個別の指導計画」の作成・活用に関する支援を行い、児童生徒一人ひとりの成長・発達の基盤の力の育成に寄与する。

2 専門性の発展・継承

校内の実践例や校外の研修等で得た知見を基に、自立活動の考え方や指導方法をまとめる等、自立活動および特別支援教育に関する専門性の向上に役立つ情報の発信を行う。

3 指導力の向上

入学時からの様々な情報を蓄積・活用しながら、児童生徒の12年間を、長期的な視点に立って継続的に支援できること等、全校に関わる専任としての貴重な機能を自覚して、専任スタッフの全校的な有効活用をめざす。

取り組みの具体的な内容を発信・実践・研修・蓄積のグループに分類し（Fig.1）、対応している目標番号を枠内に

*の後に示した。その結果、それぞれの取り組みが複数の目標に照らした内容であることが明らかになった。ほとんどの業務については実績を積み重ねることができているが、一方で、「指導方法」や「実践例」はまだまとめに至っておらず、今後の課題として再確認できた。

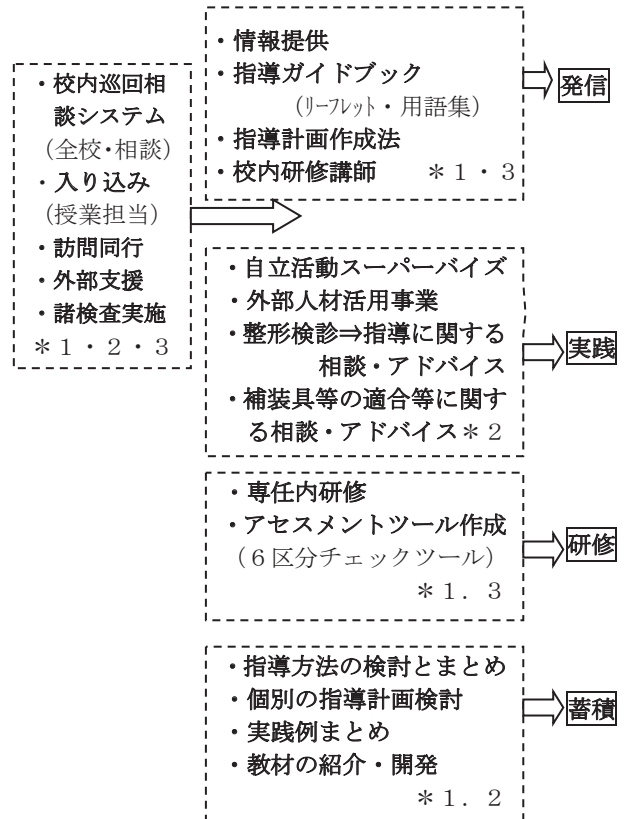


Fig.1 専任スタッフの業務

（考察）

現体制の特色である「巡回システム」は、3つの目標を包含した取り組みとなっている。「巡回システム」には、「相談巡回」と「全校巡回」の2種類がある。「相談巡回」は、学年・クラスや授業担当者の教員からの要望に応じて、様々な相談に対応するシステムである。また、「全校巡回」は、専任スタッフが授業を巡回し、自立活動の視点で学年・クラスの教員と情報交換し、助言するシステムである。取り組みの細部については、毎年見直ししながら改善を図っているが、5年間大きく変わることなく継続できてきたのは、このシステムが校内に浸透し、成果を上げているからと考えられる。

「巡回システム」における専任スタッフの具体的な業務について、客観的な評価を得て検証し、課題を明確にするため、次の研究では全教職員対象にアンケート調査を実施し、認知度、有用度等について検証する。

(UCHIYAMA Yoriko, ASANO Yukako, URAI Syouko, MIKI Youko, MIYAKE Tamotu, IWASA Masahide)